

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 134 号	2012年9月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 9月2日（日）① ビオトープ全域の市道土手と水路土手ほか草原ゾーンほか全般の草刈が出来ました。
- ② エコアップは溜池内のカナダ藻、イグサ、アシカキの駆除
- ③ 田んぼのイナゴ捕り
- その他勉強会 イナゴとバッタとキリギリスの違い
- 22名の参加者がありました 山大農学部のかいさん応援もありました。

- 9月15日（土）「親子自然観察隊」秋の昆虫”でした、秋の七草がところどころに咲いていた須賀河内川沿いの昭和山登山道入口までを探索して歩きました。
- ビオトープ田んぼのイナゴも捕って相当数の秋の昆虫を捕獲観察出来ました。
- 子ども隊員7名、ジュニア隊員4名、シニア隊員1名、父母隊員7名、つくる会会員（指導員）10名、総計29名でした。

- 9月21日（金）山大工学部にて「生物多様性ワーキング」を開催しました。ビオトープが市の多様性保全第1期事業区域に含まれたのを受け、楽しみながら生物多様性を保全する方法について話し合いました。9名の参加がありました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

- 9月20日（木）読売新聞社 古田宇部市局長が来訪
- 特集記事「二俣瀬」のうち “ビオトープ” 紹介記事を収集。今井会長と原田事務局にて対応しました。掲載月日は現在不明。

◎行 事

- 10月07日（日）維持活動（エコアップ、稲刈り準備含む草刈り）
- 10月20日（土）稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子供会）
- 10月未定 稲脱穀（天候と乾燥具合により日程決定）

3. 来訪者の声

2012. 9. 1 山口から初めて来ました。（5才の子ども1人つれて） もう少し、涼しくなったら、もっとゆっくり色々観察したいです。特にチョウトンボを近くで。

山口市 菅原

4. 会員の声 ※地元のおじいちゃんの談話

私が小さい頃（小学生・中学校時代）この須賀河内川で、ウナギ籠を浸けて沢山ウナギも捕ったものじゃ！魚の種類も ホウセンボウ（カマツカ）・モヅクガニ・真フナ・アユ・ナマズ・ギギユ・川タナゴ・川エビ（手長エビ）・ハヤ（川ムツ）などなど川遊びをしながら良く捉まえたものじゃ！ いつ頃からこんなに種類や量が少なくなったか？青春時代や仕事で通常の生活が忙しくなってから当分の間、川との関心も薄らいで10年来前から再び関心を持ってくるとこんな状態で非常に残念じゃ！。

いまはカワムツは沢山いるが、そのうち川を汚したり、観察調査などと言ってむやみに捕まえたりしていると更に魚は居なくなってしまうぞ！。魚だけでなく昆虫も！

5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫」

心配されたお天気も回復し、一時よく晴れて、昆虫もかなり見られ、どうにか昆虫採集の行事を無事終えることができました。隊員も、他の行事と重なって、いくぶんか出席率が悪かったものの、青空の下、網を持ち、一生懸命昆虫を追いかけてきました。

チョウやトンボが幾分か少なかったようでしたが、今回はオニヤンマのペアを採集し、みな大喜びでした。又、大きなチョウセンカマキリが採集され、バッタと同じカゴに入れたため、大きなショウリョウバッタが頭から半分ほどを食べられてしまい、自然界の弱肉強食の姿を思い知らされました。一見かわいそうな出来事でしたが、これも自然界の姿を学ぶ良い事件だったと思います。

一旦、東屋に引き返し小休止したのち、皆で水田に入りイナゴの駆除を行いました。時期が悪かったのかわかりませんが、幸いにも思った以上にイナゴの姿はなく少し安心しましたが、多くいたイナゴの姿が見えず、逆に不安でもありました。

確認された昆虫

＜チョウ類＞ ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、ヒカゲチョウ、キタキチョウ、アオスジアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、

＜トンボ類＞ オニヤンマ、ギンヤンマ、(同ヤゴ)、タカネトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ノシメトンボ、リスアカネ、ハグロトンボ、アオモンイトトンボ、キイトトンボ、アジイトトンボ、

＜バッタ、コオロギ類＞ トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、イボバッタ、ヒシバッタ、ハネナガヒシバッタ、オンブバッタ、ツチイナゴ、ナガバネイナゴ、ウマオイ、ヤブキリ、エンマコオロギ、

＜カマキリ類＞ ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ、コカマキリ、

＜コウチュウ、ハムシ類＞ コアオマナムグリ、ウリハムシ、ナナホシテントウ、

＜その他＞ ウスバカゲロウ幼虫（アリジゴク）、ヘリカメムシの仲間、ツマグロオオヨコバイ、トビイロシワアリ、クロオオアリ、タイコウチ、



8月4日の観察隊の感想（川の水棲動物）

★いはらかずきくん

ぼくは、ババと ひなの と3人でビオトープに参加して魚釣りをしました。えさはバッタです。魚はバッタが好きなようで面白いようにつれました。まえ、伸治おじちゃんより海の魚つりを習いましたが、今度はバッタで海の魚つりしてみようと思います。僕は魚つりが好きです。

★大井千春さん

先日の沢登り体験は、親子共に初めての体験で、不安も持ちつつ参加してみました！最初から最後まで、ハラハラドキドキワクワクな体感ばかりで、今でも感覚を思い出す程です。大袈裟ですが、一生の中でしないだろうと思う体感でした。低学年の我が子には、今後素晴らしい力となって日々成長していけると感謝しています。

★山本将大くん

途中いっぱいこけたけどおもしろかった。

★山本洋伸さん

子供もこの沢登りは毎年楽しみにしております。いつも先頭ではしゃいでしまい、観察というよりは水遊びに近い状態ですが、日ごろの生活では出来ない貴重な体験をさせて頂き感謝でいっぱいです。

★婦木義則君

二度目の川登。去年よりはスムーズに進むことができました。いろいろな川の生き物に出会えて楽しかったです。

★婦木奈々子さん

ビオトープ周辺で魚釣りをしました。大きな魚が釣れました。とっても楽しかったです。

★婦木貴子さん

毎回ながら、今のご時勢体験できない事ができて、子供たちにとって大変いい経験をさせて頂きました。ありがとうございました

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（5 2）オオヤマトンボ（エゾトンボ科・オオヤマトンボ属）

Epophthalmia elegans elegans

ほぼ日本全土に見られますが、北海道や東北地方北部では少ないようです。エゾトンボ属の特徴である金緑色をベースにしたオニヤンマに次ぐ大型のトンボです。平地や丘陵地、低山地の開放的で比較的大きな池に棲息します。オスは岸に近い水面を一定の距離と一定の高さを保ちながら時間帯により何度も繰り返し縄張り飛翔します。

羽化は6月はじめより7月ごろまで行われ、真夜中に羽化します。イトトンボやアカネ属のようにまとまって羽化はせず、大きな池でも1日（一晚に）2～3頭ほどしか確認できません。羽化場所も毎日違い、1頭ずつ別々に羽化しますので、ヤゴの上陸を探すのは至難の業ですし、ほぼ毎日の観察が必要です。

生態写真もなかなか撮れません。休止している姿は何年も通っているうちに偶然に発見できればよいほどで、私も林の中で偶然にも幸運があり、連結したシーンや姿を撮影できましたが15年ほどかかっています。



←オオヤマトンボ ♂休止



連結の状態 上がオス



メスの羽化

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

(1) 新入会員 名前：平林千春 山口大学生
住所：山口市

(2) 9月21日、山大工学部にて「生物多様性ワーキング」を開催しました。ビオトープが市の多様性保全第1期事業区域に含まれたのを受け、楽しみながら生物多様性を保全する方法について話し合いました。たくさんの人に楽しんでもらえそうな案がいくつか出てきました。みなさんにお知らせ出来るよう、市の多様性協議会で議論していきます。（関根 雅彦 記）

8. 編集後記

みなさんは光るキノコを見たことがありますか？

NHKの「光る森～神秘の発光を追う～」という番組で、私は初めて光るキノコと、光る落ち葉を見ました。それは、それは美しく幻想的な光景でした。日本では10種類ほどの光るキノコが確認されているようですが、なかでもシイノトモシビタケは、形もかわいらしく、私好みです。

なぜキノコが光るのか…TVでは、光ることで虫を集め、傘の裏にある胞子を虫の力を借りて遠くまで飛ばしているのだと説明していました。光る落ち葉もキノコの菌糸が広がっていて、それが光っているのだそうです。子孫を残すための工夫なのだそうです。

国立科学博物館の연구원の方が光るキノコを調べたところ、クヌギタケの仲間が多く、シイやカシの倒木に菌糸を伸ばし、木を分解し土に還していました。

光るキノコが存在することは、森の循環がうまくいっていることを示しているようで、逆に存在しなくなったときには、森に異変が起こっていると思ったほうがいい。

光るキノコは自然の営みを目に見える形で表してくれる森からのメッセージなのだそうです。

知れば知るほど、自然の神秘に驚かされますね。

（中本 亜矢子 記）